

水とわたしたちの未来

宮崎大学教育学部ふぞく小学校

三年 高瀬 史恩

水は、わたしたち人間の生活に必要な不可欠です。なぜなら、水がなければ、お風呂で一日のつかれをとることも、台所でおいしい料理をつくることも、お気に入りの洋服を洗たくすることもできないからです。

わたしは、今年のお正月におきた、のと半島地しんで、二か月以上も水が出なくなってしまう、たというニュースを見て、もしも自分が水のない世界で生活することになったら、とそうぞうして、とてもかなしい気持ちになりました。

地しんのような自然災害で、水が使えなくなってしまう、たときに、わたしができることは少ないかもしれないけれど、水を大切にするために、わたしにできることがないか、しらべてみました。すると、水を大切にすため、三つのポイントがわかりました。一つ

目は、水を大切に使うこと、二つ目は、よごれをそのままながさないこと、三つ目は、かんきょうを守ることです。具体的には、洗たくの回数をへらしたり、お風呂でシャワーを出し続けられないこと、台所でお皿を洗うときに洗ざいを使いすぎないこと、あぶらよごれをふきとってから洗うこと、そして、川にごみをすてないということです。

わたしは、日本に生まれて、日本ですごして、あたりまえのように毎日水を使っています。ですが、世界では五人に一人が安心して水道水を使えないのだそうです。また、五人に二人は、水と石けんがあたりまえにある洗面所を、家に持っていないのだそうです。こんなにもめぐまれた生活をしているわたしたちが、今未来のためにできることは、他にないでしょうか。

最近よく耳にする「SDGs」という言葉についてしらべてみると、持続可能な世界をめざして、地球上のすべての人が、安全な

水を使えることが目ひょうの一つになってい  
ることを知りました。そこで、わたしは、あ  
ればあるだけ水を使うのではなく、再利用す  
るということについて考えてみました。おふ  
ろの水を、洗たくや洗車、ベランダのそうじ  
などに使ってみたり、お米を洗った水を、草  
花の水やりに使うことなどです。

今は、あたりまえのように使える水が、い  
つ日本でも不足するかわかりません。わたし  
たち一人ひとりが、自分のこと、自分のくら  
す国のことだけでなく、世界中のことを考  
えて、「だれ一人とりのことさない」気持ちで、  
2030年までの「SDGs」の約束をはた  
すために、今できることを考え、行動したい  
です。